

秋田大学 正 員 清水浩志郎

秋田大学 学生員 ○林 達夫

1. はじめに

自転車は他の交通手段に比べ利便性、経済性にすぐれ、健康的であることから、通学、通勤、買物交通、さらにはレジャー、レクリエーションにいたるまで幅広く利用されている。とくに公共輸送機関の未整備な地方都市、大都市周辺の人口急増都市においては、その利用が著しく増加しており、近年では自転車を重要な近距離交通手段として位置づけることができる⁽¹⁾。しかし、このような多様な自転車需要の増加は、交通事故の増加、路上駐輪、走行する自転車による歩行者の通行障害、さらに鉄道駅周辺の放置自転車の増加などの新たないくつかの問題を提起しており、とりわけ鉄道駅と商業地が隣接する地域では深刻化している。秋田市においても、近年における秋田駅前再開発事業による駅前への自転車利用者の急激な増加は、放置自転車、無秩序駐輪、歩道占拠などの問題をクローズアップさせ、さらに有料駐輪場の利用率の低さが新たな課題としてあげられ、その解決が急がれている。

本報告では、通勤、通学交通と買物交通が混合する鉄道駅周辺の駐輪場に注目し、その利用実態の分析を行ない適切な利用形態を明らかにすることを目的とし、秋田市を例に、その特性を調査した。とりわけ放置自転車対策、駐輪場建設などの今後考慮すべき諸点についての考察を行なうものである。なお、調査は、昭和59年10月7日(日)、10月12日(金)、国鉄秋田駅前周辺の4自転車駐輪場における駐輪台数調査とその利用者に対しアンケート調査(有効サンプル数、平日：459票、休日：478票)を実施した。

2. 秋田駅前周辺における駐輪場の利用特性

現在、国鉄秋田駅前周辺には、表-1に示す4駐

表-1 秋田駅前主要自転車駐輪場の概要

駐 輪 場 名	管 理 主 体	駐 輪 容 量	駐 輪 料 金	利 用 時 間	構 造	秋田駅からの距離
1. 市営無料地下自転車駐輪場	秋 田 市	1160台	無 料	午前9時半 ～午後9時	2段式ラック：580基	約150m
2. 公営有料地下自転車駐輪場	秋 田 市	250台	100円/日 1500円/月	午前7時 ～午後10時	2段式ラック：61基 平 面	約200m
3. 秋田駅構内自転車駐輪場	国 鉄	約450台	無 料	終 日	平 面 (屋根なし)	約100m
4. 市営臨時自転車駐輪場	秋 田 市	約300台	無 料	終 日	平 面 (屋根なし)	約300m

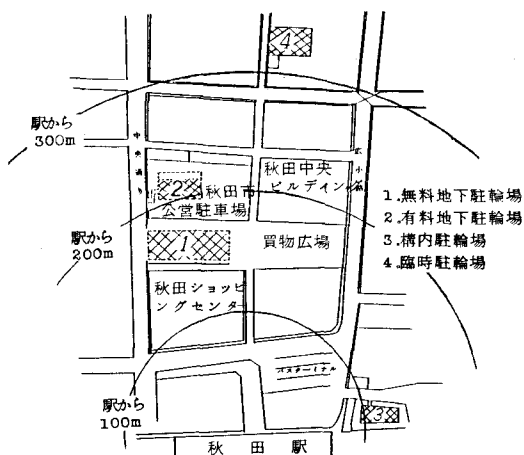
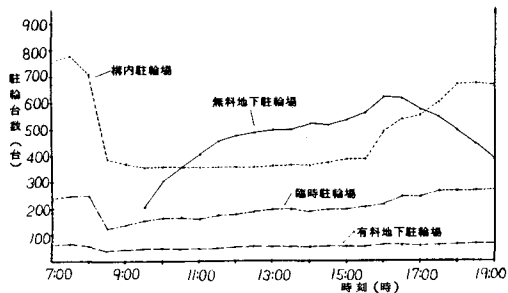


図-1 秋田駅前周辺の駐輪場概略位置図

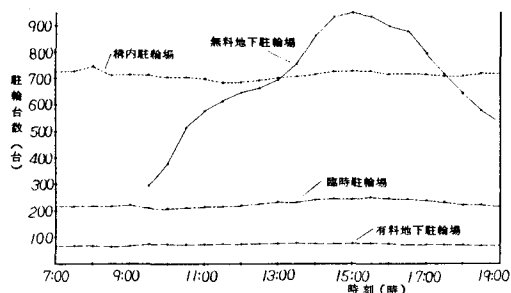
輪場が設置されており、駐輪容量は約2200台で、いずれの駐輪場も秋田駅から徒歩で3～6分圏に位置している。これらの駐輪場のうち、市営無料地下自転車駐輪場(以下無料地下駐輪場と称す)は買物客の駐輪スペースを確保しておくために利用時間を午前9時半からにしており、公営有料地下自転車駐輪場(以下有料地下駐輪場と称す)は通勤、通学に支障のないように午前7時オープンとしている。なお、各駐輪場の概略位置図を図-1に示した。

これら4駐輪場における平日、休日の時間帯別駐輪台数を図-2、3に示した。これより各駐輪場において次のようなことが明確になった。

(1) 無料地下駐輪場は、平日、休日ともに同じような駐輪パターンを示しており、駐輪場開門と同時に駐輪台数は増加し、午後4時すぎに減少する。しかし、休日における駐輪台数のピークは約620台(



図一 2 時間帯別駐輪状況(平日)



図一 3 時間帯別駐輪状況(休日)

駐輪容量の約53%)と多くの容量を残しているのに対し、休日では約950台(駐輪容量の約82%)とほぼ満車に近い状態である。

(2) 有料地下駐輪場の利用率はきわめて低く、平、休日とも、50~80台の駐輪台数(駐輪容量の20~32%)である。

(3) 秋田駅構内自転車駐輪場(以下構内駐輪場と称す)は、駐輪パターンが平日、休日で著しい相違を見せており、平日では午前7時半~9時にかけて駐輪台数が急激に減少し、午後3時すぎから増加する。一方休日では、駐輪台数にそれほど大きな変化はみられず、700台(駐輪容量の1.6倍)前後とほぼ量が一定している。このことは構内駐輪場の主な利用者は鉄道利用の学生で、その利用形態は夜間駐輪しておき、朝方に自転車を取り出して、通学に利用していることがわかる。著者らが地方都市での特殊な自転車利用形態として分析したサイクル・トレイン・サイクル・システムの利用者がこの駐輪場で多数利用していることがわかる。

(4) 市営臨時自転車駐輪場(以下臨時駐輪場と称す)では、構内駐輪場と同様、平日と休日で駐輪台数の推移が異なる。それは、休日では駐輪台数がほぼ一定であるが、平日は午前7時半~8時半に減少傾向を示しその後徐々に増加していることである。

表一2は、平、休日別の駐輪場別利用者の交通目的である。これによると、平日、休日ともに、無料地下駐輪場は買物、有料地下駐輪場は通学、通勤、構内駐輪場では通学と、平日、休日に変化がないのに対し、臨時駐輪場では平日が通学、休日が買物、通勤に利用されている。つまり、各駐輪場においてその利用者の交通目的で特化している。

つぎに、平、休日別駐輪場別利用者の職業をみたのが表一3である。無料地下駐輪場の平日においては主婦、家事手伝いの利用が多く、休日ではとくに特徴は見られない。有料地下駐輪場は平、休日ともに高校生、会社員、公務員の利用で、また構内

表一 2 駐輪場別利用者の交通目的 人(%)

駐輪場	交通目的	通学	通勤	買物	その他	合計
無料地下駐輪場	平日	10(4.6)	10(4.6)	163(74.8)	35(16.0)	218(100)
	休日	5(1.7)	11(3.8)	236(82.2)	35(12.2)	278(100)
有料地下駐輪場	平日	23(48.9)	19(40.4)	2(4.3)	3(6.4)	47(100)
	休日	7(30.4)	8(34.8)	4(17.4)	4(17.4)	23(100)
構内駐輪場	平日	115(72.3)	17(10.7)	15(9.4)	12(7.5)	159(100)
	休日	48(41.7)	6(5.2)	16(13.9)	45(39.2)	115(100)
臨時駐輪場	平日	44(62.0)	15(21.1)	8(11.3)	4(5.6)	71(100)
	休日	7(13.2)	15(28.3)	19(35.8)	12(22.6)	53(100)

表一 3 駐輪場別利用者の職業

駐輪場	職業	中学生	高校生	短大生	会社員	公務員	商工	主婦	その他
無料地下駐輪場	平	12.8%	11.0	8.3	8.3	5.5	45.9	8.3	
	休	18.5%	17.1	7.3	21.6	3.8	25.8	5.9	
有料地下駐輪場	平	0.0%	40.4	8.5	29.8	0.0	6.4	14.9	
	休	0.0%	30.4	13.0	26.4	13.0	8.7	8.7	
構内駐輪場	平	3.1%	66.7	11.3	7.5	0.0	6.3	5.0	
	休	10.4%	62.6	7.8	7.8	2.6	6.1	2.6	
臨時駐輪場	平	0.0%	60.6	7.0	12.7	11.3	4.2	4.2	
	休	0.0%	45.3	9.4	22.6	9.4	9.4	3.8	

駐輪場と臨時駐輪場は高校生利用の割合が特に高い。

以上、秋田駅前周辺の駐輪場を例としてその利用特性について分析を行なった。概して言えることは、駐輪場の地理的立地によって、また料金体制によって利用形態に著しい相違があることがわかった。今後、路上放置禁止等を含め総合的な検討を試みたいと考えている。

なお、本調査を実施するにあたり、多大な御協力を頂いた、秋田駅前再開発事務所、秋田市駐車場公社、国鉄管理局に対し、感謝の意を表する。

参考文献

- 1) 「地方都市自転車交通網計画策定調査研究報告書」自転車道路協会。昭和56年7月
- 2) 清水浩志郎、佐藤誓一「地方都市における自転車の利用特性に関する考察」。国際交通安全学会誌昭和57年12月